

巡礼団があす出発

東京・水俣病を告発する会

ミナマタ訴え熊本に

水俣病の恐ろしさ、患者の悲惨な生活を各地で訴えながら十日、熊本地裁で開かれる水俣病訴訟第五回口頭弁論を支援に行く「東京

「水俣巡礼団」が三日朝、東京を出発する。六月二十八日、東京（本郷）で開かれた「東京・水俣病を告発する会」の結成大会で派遣が決まったもので、水俣病の恐ろしさに打たれた俳優の「何か私にできることは…」の声なきうけだった。

巡礼団の団長格、劇団「地球座」俳優、砂田明さん（三十一）埼玉県与野市与野六三五四二五「が水俣病の悲劇を知ったのはことし一月、ふと手にした石牟礼道子さんの小説「苦海浄土」からだ。グツタリと寝たままで隣人同様の胎児性の患者、病院で不自由なからたで必死に歩く老人…。悲痛な叫びを伝える「苦海浄土」に砂田さんは石牟礼さんに手紙を書いた。

五月末、水俣病補償処理委員会「命の値段」は四百万円とあつせんだ日、砂田さんも厚生省前で「あつせん反対」を叫んだ。熊本から抗議に上京した石牟礼さんとも会い「まず自分で動くこと」と巡礼の話は具体化した。

大学生、カメラマンらが次々に名を上げ、巡礼団は十一人にふくらんだ。一行は三日午前八時半、東京・丸の内チッソ会社前に集合、都内での「たぐはつ」を手始めに巡礼に出る。途中、静岡県富士市や名古屋、京都、大阪など各地で公害に反対する住民と交流、演説でも「ミナマタ」を訴え